

令和4年度 学校自己評価まとめ(令和4年9月実施)

【目標達成率】 A：80%～ B：60%～79% C：40%～59% D：40%未満

(1) 教育理念・目標		達成値
評価項目	①理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	A
	②学校における職業教育の特色は定められているか	A
	③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A
	④理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、生徒・保護者等に周知されているか	A
	⑤教育目標、育成人材像は、卒業後に就職するであろう企業のニーズに向けて方向づけられているか	A

①課題

- ・理念、目的、育成人材像、目指す学校像、教育方針、重点目標など、多くの項目があるため、教職員にもわかりにくい面がある。
- ・職業教育の難しさ。
- ・就職者の早期の退職。
- ・「継続する」力、社会性、社会の厳しさに耐えうる力を身につけさせなくてはならない。

②今後の改善方策

- ・体系化した教育方針、目標をわかりやすく提示。
- ・変わりゆく時代についていくため、企業との連携を強め、今の社会のニーズに沿った人材育成を計っていく。
- ・本校と長年ご縁をいただいている企業様に、菊武で学校生活をしている生徒達の現状を知っていただき、その上で、受け入れていただける企業を開拓していく。これに加えて新規企業を開拓していく。
- ・専門課程の教育内容をさらに充実させる。
- ・入学後も定期的に目標を見失わないように、学年集会や各学期末のキャリアパスポートを活用する。

③特記事項

- ・学校の理念・人材育成像等は体験入学等でしっかりと周知されていて、理解を得られている。毎朝、誓いの言葉を唱和し、生徒にも育成人材像を意識できるようにしている。
- ・1年生から職場体験をさせたりする職業教育は、早い段階から働くことを意識させ、学業へのモチベーション向上に繋がっている。

(2) 学校運営		達成値
評価項目	①目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
	②事業計画に沿った運営方針が策定されているか	A
	③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	A
	④人事、給与に関する制度は整備されているか	A
	⑤教務・財務等の組織整備など、意識決定システムは整備されているか	A
	⑥学校として、また地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A
	⑦教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A
	⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B

①課題

- ・ICT化の遅れもあり、業務の効率化がまだまだできる。

②今後の改善方策

- ・ICT化を進めるとともに、ICT化以外の面からできる業務の効率化を図る。
- ・ムダな業務を廃止または簡略化できるよう、職員に聞き取り調査をし、精査していく必要がある。

③特記事項

- ・教育活動の発信はホームページから積極的にしている。

(3) 教育活動		達成値
評価項目	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
	②教育理念、育成人材像や企業のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A
	③カリキュラムは体系的に編成されているか	A
	④コース制によって特徴を活かした教育活動が行われているか	A
	⑤キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A
	⑥授業評価の実施・評価体制はあるか	B
	⑦成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	B
	⑧資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
	⑨人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B
	⑩関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	B
	⑪職員的能力開発のための研修等が行われているか	A

①課題

- ・学習面において、個々の理解度に対する対応がもっとできるとよい。
- ・学習指導要領改訂に伴う学習評価方法が最良のものとは言えない。
- ・コース制による特徴を活かしたカリキュラムの更なる質向上。
- ・社会の変化や生徒の多様化に対応できる教職員のさらなる資質向上。
- ・授業評価の実施は、個々で行われているが、学校全体での評価体制が整備されていない。

②今後の改善方策

- ・教員人材育成のため研修会を増やしたり、無料のオンライン研修の情報を共有したりする。
- ・各教科、各部署での打ち合わせの頻度を増やす。
- ・生徒からの授業評価を積極的に活用し、よりよい授業を展開。

③特記事項

- ・職員研修は年に数回定期的に行われている。全職員がカウンセラー2級の資格を取得する研修会も実施した。
- ・生徒の習熟度に応じた補習の検討。
- ・検定へのさらなる受検促進と、合格率を上げるための補習の実施を検討。

(4) 生徒指導等		達成値
評価項目	①基本的な生活習慣の確立のために取組が行われているか	A
	②生徒・保護者が相談しやすい体制は組まれているか	A
	③進学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A

①課題

- ・遅刻をする生徒数が年々増加傾向にある。
- ・自分の進路をもう少し早く考え、行動に移させたい。
- ・多様性（個々人の差）の問題。
- ・スマホ依存症、寝不足の生徒への指導が必要。
- ・スクールカウンセラーの来校日に限りがある。相談体制をもっと充実させたい。

② 今後の改善方策

- ・1年生の早い段階で、進路指導部からの話をし、意識づけをしたい。
- ・遅刻に対しての指導方法の検討。学年によっても傾向が多少異なるため、学年毎での指導も検討。学年集会の活用。保護者への連絡。ゲーム依存予防講習会の実施。皆勤賞の復活や生活習慣チェックシートなどの検討。他校の遅刻改善への取り組みを調査する。担任だけでなく学年職員全員で声かけをする。
- ・カウンセラーの来校日を増やす。
- ・校則見直しの継続。
- ・教員の能力の差を縮めるために教員研修を増やし資質向上を図りたい。
- ・生徒対応について、生徒情報の共有を学年や教科担任へもつとしていく。またどのように対応すべきか色々な意見を取り入れる。
- ・担任と生徒の懇談や自己評価表へのフィードバックをする日を設けるよう検討。
- ・面接等の進路指導で、経験の少ない他学年の職員も参加し経験を積めるよう検討。

③ 特記事項

- ・担任だけでなく色々な先生から声かけをしている。声かけが必要な生徒、保護者への早い対応を心がけている。校長が率先して生徒や保護者に声かけをしている。保護者とこまめに連絡をとり、生徒の学校生活の様子を共有している。
- ・生徒の問題行動はここ数年で激減し、現在はほとんどない。
- ・生徒と教員との距離が、他の学校よりも近く、相談しやすい。
- ・定期的にスクールカウンセラーと保護者や生徒が面談できる日がある。
- ・早い段階から大学・短大・専門学校へのオープンキャンパス参加促進を行い、納得した進路選択をさせることができた。
- ・保護者対象姉妹校見学の検討。
- ・丁寧な履歴書指導、面接指導を心がけることができた。

(5) 学修成果		達成値
評 価 項 目	①就職率の向上が図られているか	A
	②資格取得率の向上が図られているか	A
	③退学率の低減が図られているか	A
	④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	B
	⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	B

①課題

- ・卒業生の状況について把握ができていない。
- ・離職率が社会全体の傾向と同様に増加している。
- ・就職につながる検定取得率の向上がさらに必要。

② 今後の改善方策

- ・卒業後の様子の把握方法等を研究、検討。
- ・検定取得率を上げるべく、方策として補習でのサポートの向上、検定を取得することはなぜ役に立つのかということを生徒に周知して、将来へのことを考えてもらい、取得率を上げる。
- ・できる生徒への上級検定取得に向けたサポート体制を強化。
- ・姉妹校へ進学後、就職した生徒の就職先情報を積極的に取得し、在校生への進路指導に活かす。
- ・実施検定や方法の見直し。CBT 試験など、学外受験で機会を増やせるケースもある。
- ・ホームページに卒業生が気軽にメールできるフォームづくりの検討。

③ 特記事項

- ・1年生から働くことへの意識づけに取り組んでおり、継続していきたい。
- ・外国籍の生徒等のフォローとして「日本語検定」活用の検討。
- ・学校 HP で在校生の個人的な活躍も紹介されていてよい。
- ・検定合格に向けての補習等は、継続して行う。
- ・卒業した生徒がよく遊びに来てくれるということはよいことであり、これからもそういう学校でありたい。
- ・検定取得を通して、自信を付けさせ、将来への目標を高く掲げ頑張る気持ちを育む教育方針をしっかりと継続していきたい。
- ・欠席状況に応じた面談や家庭への連絡等から、退学を防止するよう活動している。
- ・退学率を減らすため、色々な教員から声かけや教員間の情報共有が必要。
- ・職業体験を積極的に活用させ、よりよい進路選択ができるような指導の強化を図りたい。

(6) 生徒支援		達成値
評価項目	①生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	A
	②生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	B
	③課外活動に対する支援体制は整備されているか ※	A
	④保護者と適切に連携しているか	A
	⑤卒業生への支援体制はあるか	B

※ 部活動、サマーキャンプ、サマースクール、スノーボードスクール、検定補習など

①課題

- ・体調不良生徒への対応が不十分。
- ・部活動の場所や時間の確保が難しい。
- ・部活動数の増加で、やりたいことを応援していてよい反面、活動日が減って物足りなさを感じる生徒もいる。

②今後の改善方策

- ・体調不良者や怪我への救急対応は教職員だれもがアップデートする必要があるため、日赤や消防の応急処置の講習を定期的にする。
- ・部活動の数・活動日・場所・部費の配分等の再考。

③特記事項

- ・課外活動を有効に活かしてコミュニケーション能力等の向上を図る。
- ・コロナ禍において、黙食指導・検温・消毒等のコロナ対策は適切に行っていた。
- ・保護者との連絡は密に行い、信頼を得られるよう今後も続けていきたい。より良いコミュニケーション能力向上のための勉強も必要だと考える。
- ・生徒一人ひとりに寄り添い、声をかけていくことを今後も続けていきたい。
- ・学校独自の経済支援体制は整っていないが、補助金の拡充を県などに働きかけ、充実しつつある。また、申請漏れのないよう、未提出者に関しては保護者ともこまめに連絡をとっている。

(7) 教育環境		達成値
評価項目	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B
	②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	B
	③防災に対する体制は整備されているか	B

①課題

- ・校舎・施設設備の老朽化。
- ・災害時の対応や防災への備えに心配がある。
- ・パソコンまたはタブレットの一人一台端末や電子黒板の整備が遅れている。

②今後の改善方策

- ・優先順位の高い順に改修していく。
- ・吊りテレビの撤去
- ・緊急時マニュアルの改訂、見直し。普段から自分の身を守る教育の強化。

③特記事項

- ・職場体験・インターンシップは協力いただける企業を広げることができている。
- ・パソコン実習室は最新のパソコンが導入されたりして整備されている。授業後、夏休み等も実習室を開放し、生徒が自習できる環境がある。
- ・校舎内のWi-Fi設置が完了。少しずつ教育設備の充実化を図っていきたい。
- ・照明のLED化促進。

(8) 生徒の受け入れ募集		達成値
評価項目	①生徒募集活動は、適正に行われているか	A
	②生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A
	③学納金は妥当なものとなっているか	A

①課題

- ・入学金・授業料等の学納金について保護者負担を減らしたい。経済的に不安を抱えているご家庭が少なくない。
- ・SNSの活用ができていない。

②今後の改善方策

- ・学納金の見直し。保護者負担は増やしたくない一方、教育内容充実の為、資金調達は必要不可欠。そのバランスをしっかりと検討していく必要がある。
- ・本校の魅力をしっかりと伝える。Instagram等SNSの活用を検討する。

③特記事項

- ・年間を通して、多くの体験入学、入学説明会、個別見学を実施している。
- ・高等専修学校の良さ、面倒見の良さを引き続き伝える努力をしていきたい。
- ・生徒募集に関して、職員全体で取り組んでいる結果が表れていると思う。

(9) 財務		達成値
評価項目	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
	②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
	③財務について会計監査が適正に行われているか	A
	④財務情報公開の体制整備はできているか	A

①課題

- ・財務基盤安定のため安定した入学者数の確保

②今後の改善方策

- ・安定財源の確保は入学者の確保であるため、日々の教育活動をしっかり行い、本校の教育内容を理解していただけるよう心がける。
- ・経費の節約に心掛ける。節約できるところはしっかりと節約する。

③特記事項

- ・職員一人ひとりが光熱費などの節約を心がける。
- ・優先順位をつけて設備の改善をしていきたい。
- ・定期的に内部監査や公認会計士監査が行われている。
- ・財務状況は学園のホームページで公開している。

(10) 法令等の遵守		達成値
評価項目	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
	②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
	③学校自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	A
	④学校自己評価結果を公開しているか	B

①課題

- ・学校自己評価を行う体制ができていない。
- ・個人情報の管理・保管・処分に関して、職員間で意識に差がある。
- ・USBを使う機会がまだまだある。

② 今後の改善方策

- ・個人情報について、職員全員で日々意識をしながら生活をする。
- ・漏洩事例を共有し、常に意識することを促す。研修会の活用。
- ・学校自己評価は、集約する時間を短くし、各部や全体での会議に時間を費やせるよう、効率化に向けて方法を検討したい。
- ・学校自己評価だけでなく、学校関係者評価も行い、広い範囲からの意見を学校運営に取り入れていく仕組みの構築。

③ 特記事項

- ・個人情報の取り扱いについては入学時にポリシーを確認し、必要なものは本人の承諾を取っているし、ホームページに写真を掲載する際は解像度を下げて個人の特長をにくくしているのも適切に取り扱われていると判断できる。

(11) 社会貢献・地域貢献		達成値
評価項目	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A
	②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	A

①課題

- ・ボランティア活動に出る教職員に偏りがあり、教職員内でも意識に差がある。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動を担当者だけに任せるのではなくて、輪番制にする。より多くのボランティアを行うには、より多くの教職員が関わらないと増やすことはできない。
- ・現在は生徒会役員に頼っている面が大きいので、全体的なボランティア活動の奨励と生徒の意識向上に努める。部活や、生徒会、学校行事にあまり参加していない生徒に声掛けをしてボランティアに参加してもらう。
- ・コロナが落ち着いたら、「文化のみち」のようなイベントで地域と繋ぐ。
- ・地域の方向けにパソコン教室や公開講座の検討。
- ・保護者向けのパソコン教室や公開講座の検討。それにより、保護者の知識向上、学校の良さも知ってもらえるのではないかな。

③ 特記事項

- ・今年度は日用品や菓子類を集めて、おてらおやつクラブにおそなえする新しい取り組みも行った。
- ・コロナ禍においても、生徒会やボランティア委員会を中心に地域貢献や東北ボランティアを積極的に行うことができている。ボランティア活動を奨励、支援することから、社会性や自己肯定感を高めさせることができていると感じる。今後も継続していきたい。